

仙台ターミナルケアを考える会

第111回「生と死」のセミナー

「死別前の気がかりと死別経験後の気がかりと」

日時：2009年（平成21年）7月11日（土）13:30～15:30

講師：宮林幸江（みやばやし さちえ）さん

宮城大学 看護学部 教授

日本グリーフケア協会、悲嘆サポート「オアシス」を主宰

会場：青年文化センターエッグホール（地下鉄・旭丘駅下車、徒歩3分）

参加費：無料

講師からのメッセージ：

夫を大腸がんで亡くして、早くも10年になります。今では、以前とは180度といってよいくらい違った生活になっています。夫の癌が見つかったときには、既に両親そろって半身麻痺で介護中でした。夫の場合、毎月の検査に何の徴候も見当たらずだったけれども、開腹してみると手術もできず手術室をでました。余命も半年と宣告されました。末期の癌といわれても癌と戦うべく、話しに聞く食事療法（ゲルソン療法）やこのほか、藁であることを知りつつも、噂にある療法は掘ってみるという繰り返しでした。おおよそ2年間の闘病でした。戦いが終わり、葬儀と一周忌を済ませた頃です。全ての介護から開放され不安定な中にも一見安定が訪れる筈でした。しかし、通奏低音のように悲しみが糸を引き、またどこか緊張感のような焦りのような感覚もあり、無我夢中の延長でいつのまにやら今日に至った感じがあります。

10年目という節目を迎えるにあたり、わが道を少し振り返ってみて雑感を述べようと思います。

主催：仙台ターミナルケアを考える会

問合せ先：事務局 TEL・FAX 022-211-1718

（但し、毎週水曜日 13:00～16:00）